

'02

無雪期山行報告書



信州大学山岳会 (SAC)

目次

- ・槍ヶ岳 北鎌尾根 5/3～5/5 P.2～3
- ・女鳥羽川 中の沢 地獄谷 6/1 P.4～5
- ・錫杖岳 前衛 7エース自壁 カンルト 6/3 P.6
- ・奥秩父釜沢西保右沢 7/6～7/7 P.7
- ・南アルプス 野呂川 三川(白井)沢 7/20～7/21 P.8
- ・錫杖岳 1ルンゼルト 7/28 P.9
- ・南アルプス 大井川 信濃保河内 9/3～9/15 P.10.
- ・丹沢 9/9～9/22 P.11～14.
- ・小袖鍾乳洞 9/23 P.15.
- ・常念岳・蝶ヶ岳 9/29 P.16.
- ・南アルプス 尾白川 黄蓮谷 右俣 10/5～10/6 P.17.
- ・中央アルプス 空木岳 檜尾岳 10/9～10/20 P.18
- ・湯檜曽川 本谷 10/19～10/20 P.19.
- ・餓鬼岳～燕岳 11/ P.20.
- ・日本海～上高地 8/5～8/17 P.22～30.
- ・南アルプス 金山 9/7～9/20 P.31～35.
- ・扇沢～日本海 8/6～8/13 P.36～37

槍ヶ岳 北鎌尾根

期間 5/3 ~ 5/5

Xenon L. 佐藤 横山(勝)

5/3 5:00 七倉出発

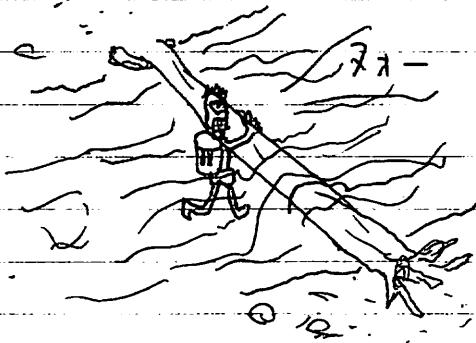
8:30 湯俣

12:00 千天出合

14:00 P₃手前下り

5:00, 2人とも寝不足の中、夜明け未明とい
言いながら出発。湯俣まで「タラタラ」と登
山道をねみながら歩く。湯俣からしづかく
歩くと言記述等よくの、でいる一枚岩のトラバ
ースポイントに着く。登山ぐつで行くとか

なり悪く、千天出合までは渓流シューズが最もよいと思う。私は
サインと相談して農耕用長ぐつを買った。ゴム製でビータとして
いるのでこれは100%と思つたのだが、全然使えまい。
「往かうるままで」ではなくして歩いている感である。とかく岩角を踏もうものなら
泥が出てくる。トラバースを過ぎると先行ハイマーがもとでます、ケ
カをして敗退したらしい。私ももろいします。それからしばらく
くらむと例の徒渉ポイントに着く。3段流の中に木が横たわ
っている。これをつたてていくのがP₁。先行ハイマーが渡るが、足をす
べらせて全身水びたり。これを見て我々はス、裸で（100%はなく）
渡ることにした。手で必死に岩から流れに对抗する。半位12
腰くらい。非常に力をいためた。P₂基部への徒渉はせず、スリ



グリップで渡るだけでも
かつて。P₂までは木登りセッキ。
渡れは見えるが問題は1つ
いと=3である。P₂の肩を起
えしがらくしたところ=3 P₃手前
でテン場下りる。

5/4

9:00 T.を出発 夜中から雨が降り始める。ヤケド寒い。カゼ
10:30 P4 まだいい。少し長めに寝てた。体調
12:00 北鎌のコル カ雪くつたので 9:00=13出発。独標まで
13:00 P9 では何も問題ない。道はつづら子し、自然
14:00 独標下。もある。独標を直登可としました。サイレンを出
すことになった。やけにぬれでいいやうにかた。独
標のスタットで雨が寒くなり 独標頂上をテニ場に了。

5/5

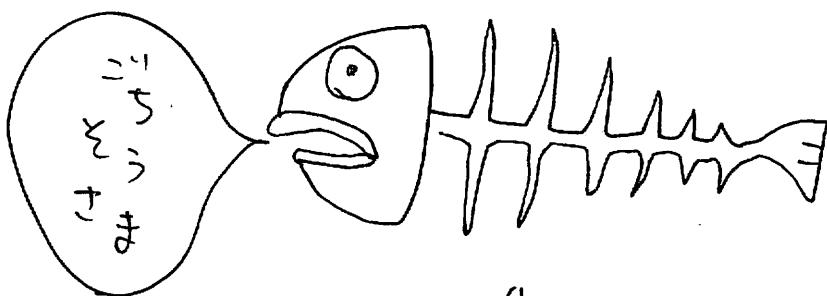
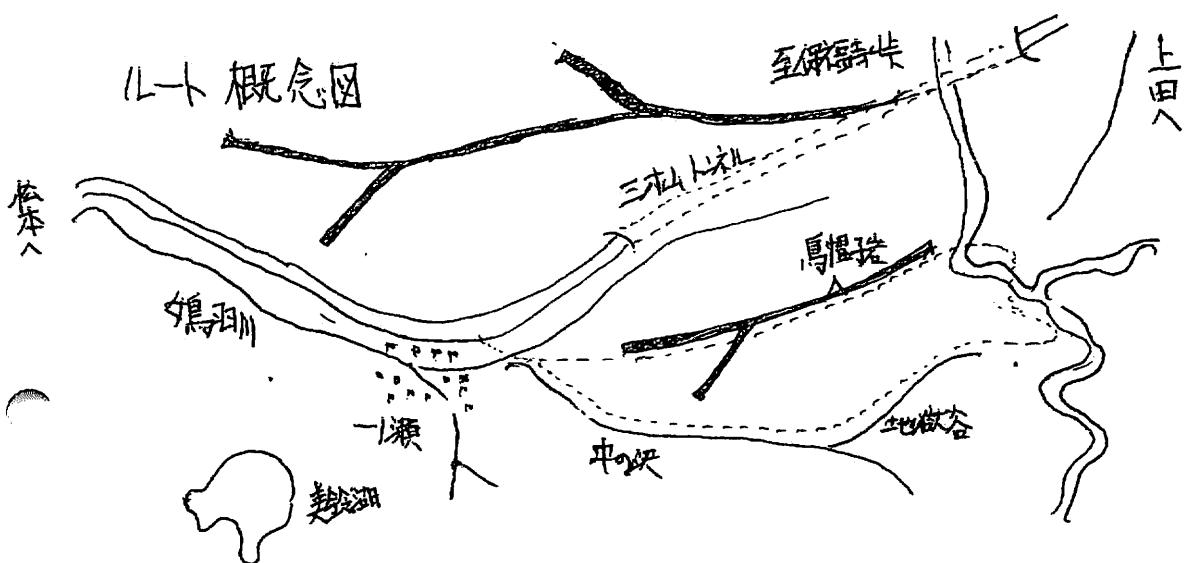
6:00 起床 6:00に起きると朝の空もようが高さいい。よし
7:00 出発 出発だ。槍ヶ岳直下の北鎌平までで歩く。
11:00 槍ヶ岳山頂 途中道をと木立長のクライムのウンでしたか。
14:30 上高地着 道にモード。山頂直下から途中で左のチグニ
1273とⅢエイヌの岩らしいか。右から簡単に行
き。槍ヶ岳山頂へ。山頂にはギャラリーが我々に向かえてくれる。
我々もモードになじむ。オモロヒー。マイタチ。
槍ヶ岳あたりからまた体調の悪さが危濃く出てくる。上高地
からのバスが18:00最終。ギリギリだった。いやー山頂へ上高地
間はまったくダメいい。

バスの中で北鎌尾根を思い出す。思ふほど難かしくなく、また途中
ゴミがあり、落胆させる部分もある。遠くから見えた北鎌(?)やアリ
カ、コイ。それが1年生のときの小走りで見つけたから思ってた。い
い尾根だ。さうして、たけい。体調の悪さの中付き合ってくれた
横山さん。可かせんでした。そしてありがとうございました。

報告書

ルト名 女鳥羽川中の沢 地獄谷

メンバー L 横山輝生 (会5、織4)
佐藤祐樹 (会3、理3)
三森武志 (会1、理1)
瀧澤輝佳 (会1、教1)
大橋達也 (会1、織1)



コースタイム

6/11 8:10 - / 濱

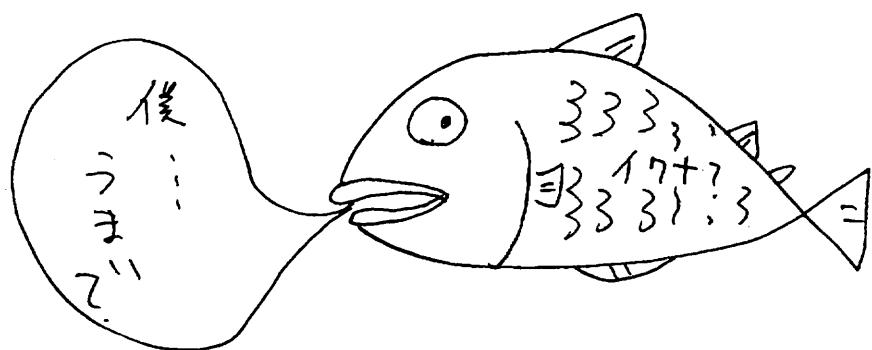
9:30 砂防ダム

12:00 }
13:00 } 釣り

車道 15:15

反省・感想

中の沢 地獄谷は本当にきれいな沢で、登攀要素はほとんど無く、自然を楽しめながら快適な沢登りが出来た。 今まで魚は釣れなかつたが、釣ったイナを焼いて食べたおいしさは忘れない。
後半に天気がくすんだのは残念だったが、
なじみ深い女鳥羽川をつめるのは本当に楽めた。



ルート名：錫杖岳前衛フェース自壁カントリー

メンバー、L 横山 勝立(5), 佐藤 祐樹(3)

夕化、5:00 槍見温泉

6:40 取り付け

15:30 八一车间终了点

17:30 取り付き

18:30 槍見温泉

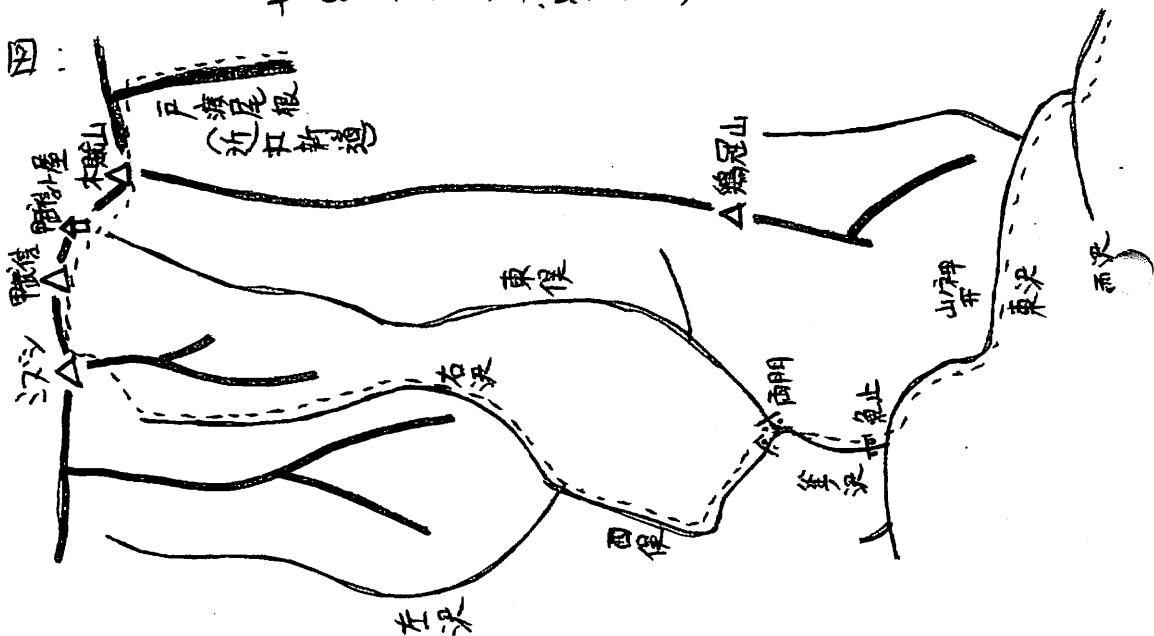
今回の山行は前年度R開拓して「体臭カニヘル」のとさに残置いたコヒー・ヘッド（残置支点）を回収するというものであった。コヒー・ヘッドは岩のくぼみ等々Rコヒー（銅）をうめ込み支点にするものが多かったが、以外とキツイものもあり、前①で「10時間ロスのため取ること」が出来なかった。幸い、「体臭カニヘル」の近くに隣にカーテルートと呼ばれるある「みかげ」やえのす、「トランダ」があり、今日はこれを登りリフトから回収しようという旨をRした。

登り筋から見て、この「体臭カーニバル」は名前
こそ変身ものであるが、内容は濃い。特に核心部
は相変わらずで、まだ「登る気分」(?)がつぶ。
この白壁はきれいで、人を寄せつけない壁であ
る。白壁カンティート自体は3P自からほとんとア
ブミで、アブミマシーンと化してい
る。アブミ、アブミをしていてなかなかいい快適である。
毎年アブミ、スンとして歩いて行くのはいか
うが)

・奥秩父釜ノ沢西俣右沢

メンバー：横山輝生（98F1038J.会5 編4）
 佐藤祐樹（0056011B.会3 理3）
 尾澤陽介（02550079.会1 理1）
 水野智章（02F5035A.会1 編1）

概念図：



7/6 9:00 駐車場出発
 11:30 ホラの貝、
 12:45 東のナナ沢
 13:50 魚止滝 T.S.

天気も良し、暖かかったので、とても気持ち
 が良かった。魚止滝を滑ったのも
 たのしかった。

7/7 5:30 T.S. 出発
 6:35 両門の滝
 8:30 右沢左沢分岐
 10:30 ミズシ
 11:00 甲武信岳
 14:00 駐車場

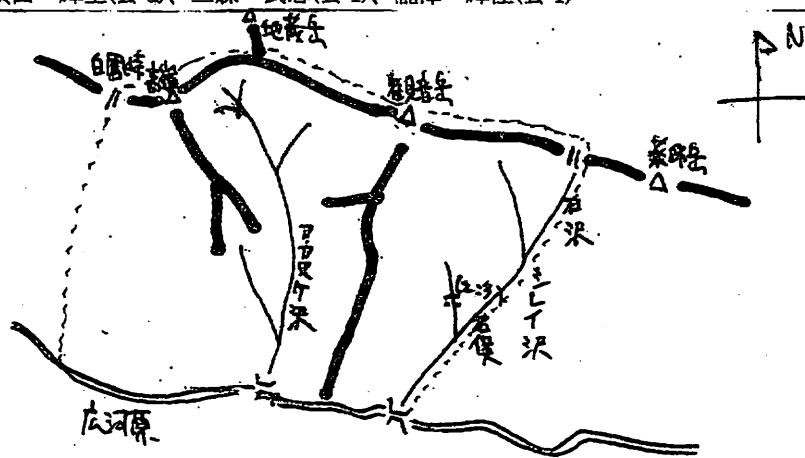
この日も天気が良く、気持ち良く歩けた。
 特に、魚止滝上の千畳のナメはすばら
 しかった。また、西門の滝にも圧倒
 された。
 最後のヤブコモを経て、ミズシに出た時体
 木ッとした。

感想・反省： 今回は天候にもめぐまれ、最高だった。難い所はそれ程ない
 が、あれ程美しいナメや、迫力ある滝を見た事かで、それは
 すばらしかった。

南アルプス 野呂川 シレイ(白井)沢

メンバー：L 横山 輝生(会 5)、三森 武志(会 1)、瀧澤 輝佳(会 1)

概念図



コースタイム

7月 20日(土)

8:20 出発 8:45 入渓 13:30 白いスラブ下 15:00 二俣

15:20 T.S.着

歩き始めはガレで怖かったが、次第に沢らしくなり、天気も快晴で心地よい気持ちがよかったです。行けども滝の連続で、ザイルも何ヶ所か出た。滝はどれも美しく、見ていて飽きるということはなかったが、そのうちに白い大スラブに囲まれた、大きく開けたところに出た。そこは明るく開放的で、3人ともしばらくの間、われを忘れていました。そこを左に高巻き、二俣を越え、崩壊地の対岸でピバーカー。この日は土用の丑の日ということで、おいしいうな丼を食べて就寝。

7月 21日(日)

3:30 起床 5:00 出発 7:20 観音岳 8:05 サイの河原

9:35 高嶺 10:00 白鳳峠 12:00 南アルプス林道

この日も終日晴れで、テント場から少し上がったところでは北岳がはっきりと見えた。そのうちに沢も涸れ、靴を履き替え、尾根沿いに稜線へと向かう。稜線上に上がると富士山までもが見え、思わず歎声を上げた。前日が海の日だったため、観音岳は登山者でごった返していたのでそのまま通過。その後サイの河原でのんびりし、オベリスクにも登って白鳳峠へ。そこからはほとんど一気に下り、昼ごろ林道へと出る。それから林道を走って車へと戻った。沢登りも稜線歩きもどちらも楽しめた、面白い山行だった。

錫杖岳 ルンゼルート

メンバー：佐藤祐樹（会3） 横山輝生（会5）
井上あゆみ（会2） 片寄哲生（会2）

コースタイム：7/28 4:30 梶見温泉発

6:10 ルンゼルート入り口

14:00 ツバメ小屋3点からルンゼルート開始。

16:00 ルンゼルート入り口

17:30 梶見温泉

夏合宿前R2年生で本格参入へ、と思いつつ、今まで
土日は雨で雨で降られ流れとまっていて、そして
とうとう晴れて1月で手R2年生ことができた。「やっと…」
と期待でき、取り付けてきたの。やはり2年生Rと、2本
千葉初めのリードでアリスタートか這い、H、さく、
ルンゼルート開始時間がきたため、やもろく7月（う
まく）P72, R72で下降する。

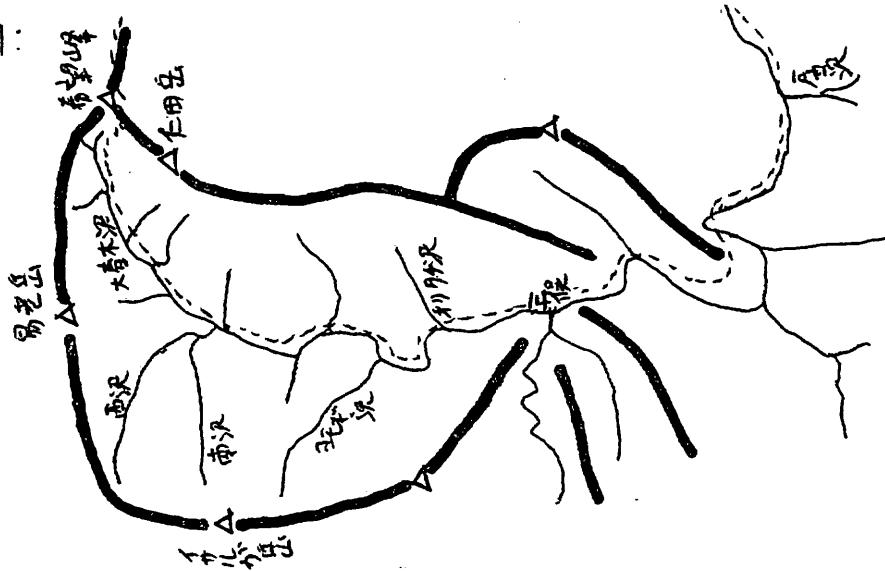
ルンゼルートは「ルンゼ」と名が付くが、さりげなく
非常に快適。7月はカンテムのスノースペースで
行くのも、左壁をフリーズして登って、なかなか安全
かつ快適。（かも早）。



。南ア大井川信濃俣河内

ナンバー：横山輝生、佐藤祐樹、尾鼻陽介、三森武志

概念图



9/13 4:30 起床
5:15 出発
5:45 前壇地
10:40 大ヨギ沢出会い
11:15 三俣
11:40 第一コールジユ
14:30 T.S.

第一エルジエでは胸までつかる所もあり、少し寒かった。
天候は悪くなく、T.S.-はまきも豊富で快適だった。しかし、イワナはつれなかつた。

9/14 5:00 起床
9:00 出発
10:00 第2ゴルフ
12:30 T.S.

夜中から降った雨のため、様子を見てからの出発となった。第2ゴルジは狭く、印象的だった。この日は岩屋(ぼや)所でピーバークとなった。

9/15 5:40 起床
7:10 出發
11:55 希望山峯
12:20 茶臼岳
14:10 橫窪沢小屋
17:30 煙籠ダム

夫氣は回復して、遠て怖い所も
あつたが一気に陵線をひつめて、
足早に下山した。下山時に何度も
足をすべらす場面がある。

感想・反省：今日は雨に降られたが特に増水もなく、最後まで行けてよかったです。雨の決まりもなくて介護園気が良かった。

報告書

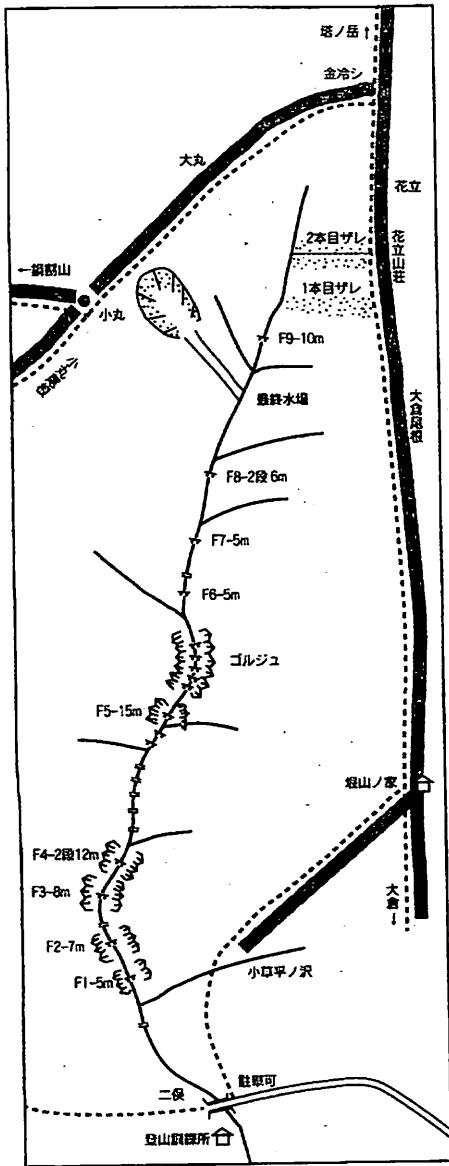
ルート名 丹沢

メンバー ム 横山勝丘 (会5.理院1)

尾鼻陽介 (会1.理1)

大橋達也 (会1.織1)

勘七1沢概観図



9/9 勘七1沢 コースタイム

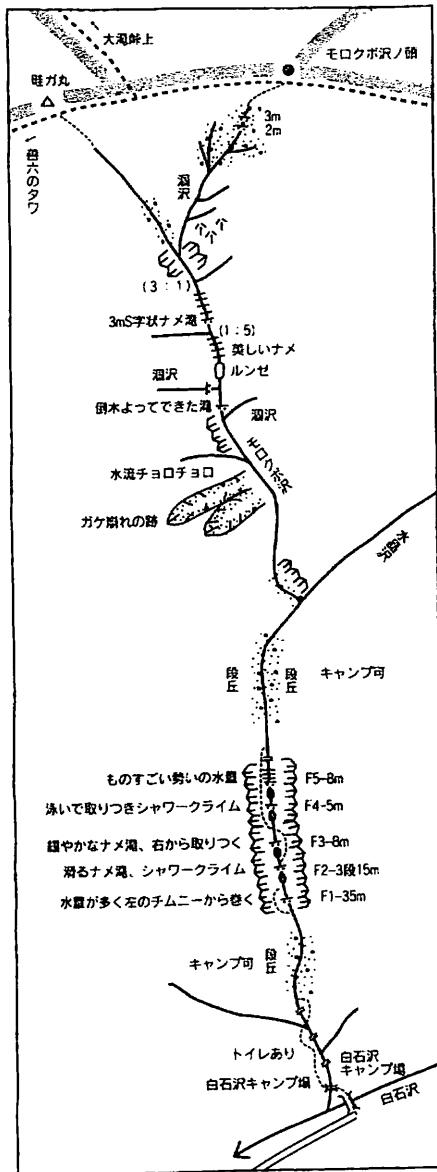
- 7:30 BOX
- 8:00 BOX発
- 13:00 車止め
- 14:00 出会い
- 16:00 花立山莊
- 17:50 車止め

反省・感想

朝寝坊してしまい、松本を出発するのが
かなり遅くなってしまった

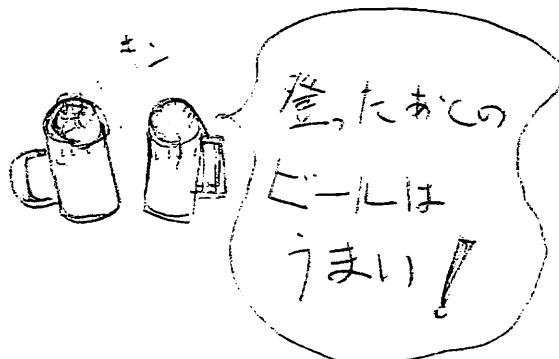
F5(15m)の大滝は水量が多く
なかなか進むのがある。ホールド
スタンスもしきりしてて快適な
滝登りができる

モロクボ沢概念図



9/20 モロクボ沢 ユースタム

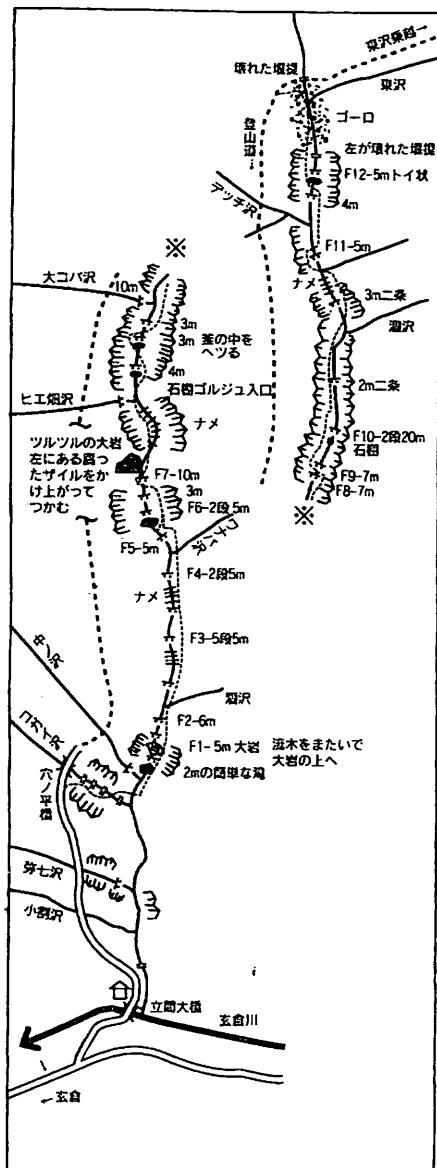
- 5:30 起床
 7:45 BC発
 8:45 車止め
 9:00 出会い
 11:00 モロクボ沢の頭
 12:50 加入道山
 14:00 大室山
 15:00 大越路
 16:00 車止め



反省、感想

今日は水量が少なくて、ナメ滝やシャワークラムは期待外れていた。しかし、系統走路は非常に快適で花の駒山である大室山のトトカブトの数には度肝を抜かれた。

小川谷廊下概念図



9/21 小川谷廊下ユースタム

5:30 起床

7:45

8:20 出会い

9:00 F5の前

10:35 石ダム前

11:50 終了点

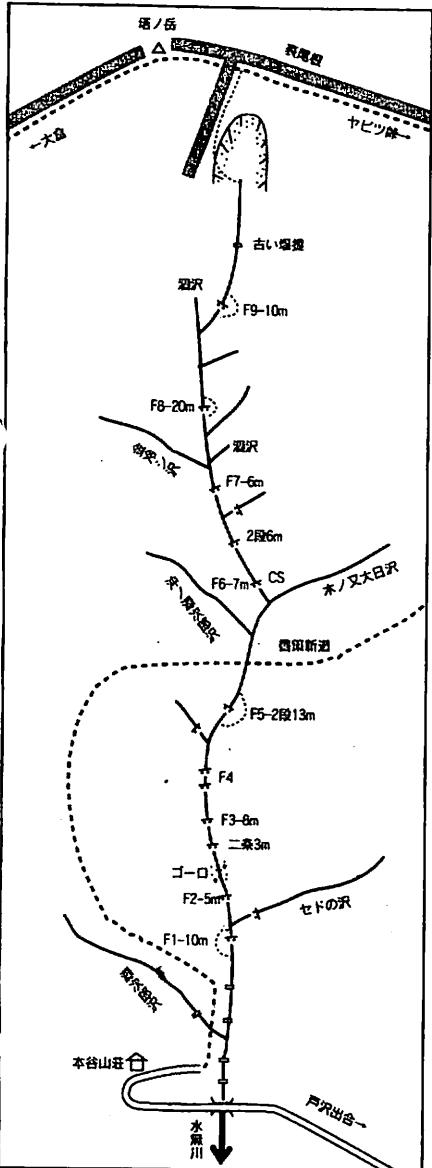
13:30 車止め



反省・感想

すばらしい沢の一言につき。エールジェネ等特にすばらしい水量も多い。F5の滝はなかなか難しく滝壺に落ちてしまつた。シャンボさんにクレタを借りても一度挑戦。こまかいスタッフにも立ちこめ、見事成功。沢でクレタが役立つとは大発見だと思う。

水無川本谷概念図



9/22 水無川本谷 ユースタム

- 7:00 起床
- 8:00 BC 発
- 8:40 出会い
- 12:00 終点(塔ノ岳)
- 12:50 塔ノ岳発
- 14:00 車止め

反省・感想

深い印象は、あれほど高くなれば
終点へ塔ノ岳をめざすところは
おもしろい。天気もそれほど良く
ないのに感心した。ついでに
遠くに富士山が見え。
眺めは良かった。

全体の反省・感想

4日間、違うタイプの沢を登ったが、それぞれに特色があり、非常に
樂しかった。さほど難しくなく、沢の樂しさ、自然の樂しさを知る上で
良い山行だと思う。次回は釣り竿を持ってくるようにしたり
最後に横山家と尾島家のもてなしには本当に感謝したい。

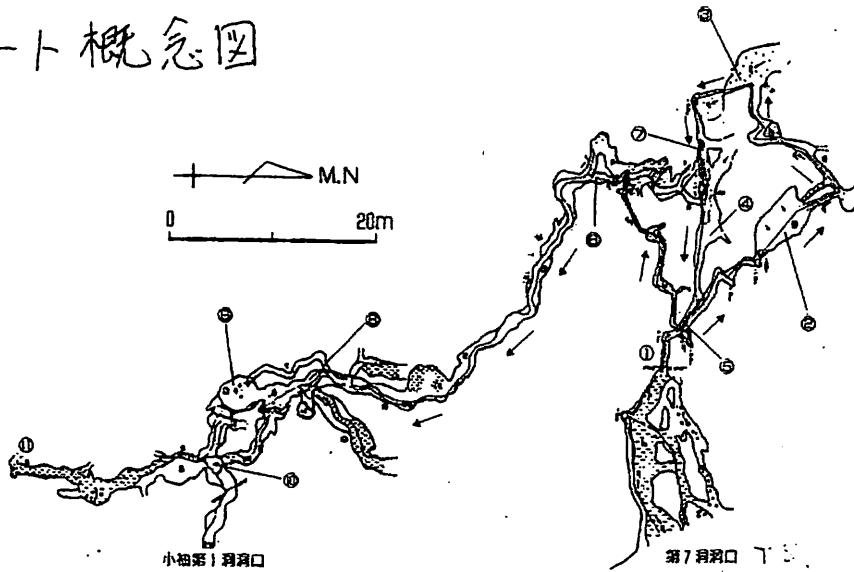
報告書

① ルート名 小袖鍾乳洞
第一洞へ第七洞

② メンバー 堺崇行、佐藤祐樹
三森武志、尾鼻陽介
水野智章

第1次(須佐見)・第2次(水島)小袖鍾乳洞調査チーム

③ ルート概念図



④ コースタイム

9月23日 第7洞洞口～第1洞洞口
(2時間)

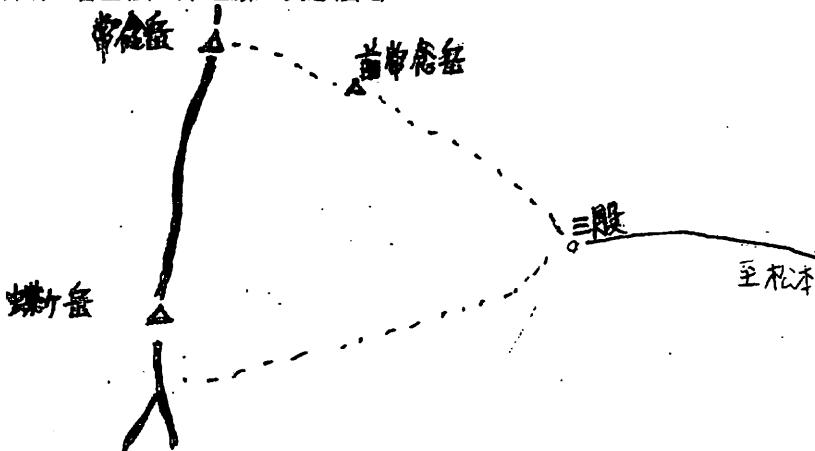
⑤ 全体の感想

初めてのケービングはものすごく刺激的であたし、「地球上にこんな所もあるんだ…」と感心しました。

常念岳・蝶ヶ岳

メンバー：L片寄 哲生(会2)、三森 武志(会1)

概念図



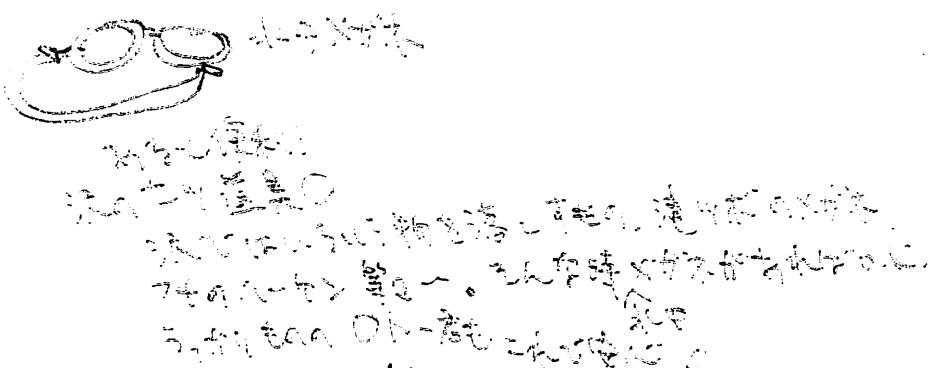
コースタイム

9月29日(日)

2:15 松本 5:30 三股着 5:50 出発 8:50 前常念岳

9:50 常念岳 12:45 蝶ヶ岳ヒュッテ 15:20 三股 17:00 松本

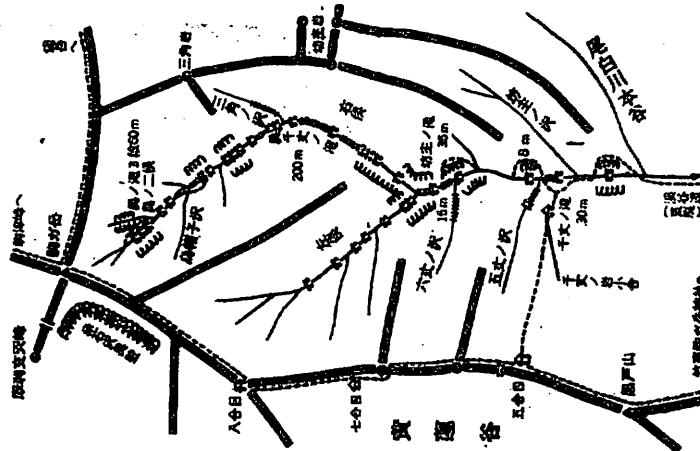
出発してから 1 時間もしないうちに、自転車で行くことを後悔していた。暗い中、3 時間もペダルをこぎ続け、やっとの思いで三股に着くと膝がガクガク震えていた。そのせいか、常念の登りでは二人ともペースが上がらず、登りに 4 時間も費やしてしまった。登り始めは天気も曇りで、雨が降るかとも思われたけれど、登るにつれまわりも晴れてきて、山頂では朝まで見えた。風が少しでていたが、これぐらいなら大丈夫だろうということで、蝶へと向かう。稜線を歩きながら、槍・穂高を眺め、ブルーベリーを食ったりして、実に爽快だった。蝶ヶ岳ヒュッテの手前ぐらいから風が強くなってきたが、すぐに樹林帯に入ったので、それほど寒さを感じることはなかった。下りは何事もなく、無事下りられた。帰りの自転車もずっと下りだったので楽だった。思えばハードな 1 日だったが、いい経験になったと思う。



南アルプス 尾白川 黄蓮谷 右俣

メンバー：L 横山 輝生（会5）、三森 武志（会1）

概念图



コースタイム

10月5日(土)

3:45 松本発 6:30 出発 7:25 林道終点 11:45 黄蓮谷出合

12:20 千丈ノ滝下 14:45 左俣・右俣出合 15:45 B.P.着

本当は林道の終点まで車で入れるはずだったのが、なぜだか封鎖されていて出鼻をくじかれてしまった。沢に下りたら下りたで渓谷道なるものがあったが、どうにも踏跡がはっきりせず記述よりも随分前から遡行をはじめることになってしまった。やはり10月ともなると沢の水は冷たく、素足に足袋のみだったので少々きつかった。その後は何度かザイルは出たものの、順調につめていけた。この日は右俣を少し進んだところでビバーク。どんなにがんばっても焚き火が点かず二人で寒い思いをしながら就寝。

10月6日(日)

5:00 起床 6:30 出発 9:00 奥千丈ノ滝上 12:45 甲斐駒ヶ岳山頂

14:30 七合目第二小屋 15:00 五合目小屋 17:30 駒ヶ岳神社

奥千丈ノ滝はそれはもう巨大なナメ滝で、高度感があり、なおかつ全身びしょぬれで日もあたらなかったので非常に寒かった。奥千丈ノ滝を越えた後、かなり大きく高巻いた。最後は尾根に出るだろうと思っていたら、いきなり稜線に出て千丈が望めたのでびっくりしてしまった。山頂で一本取った後、高度差 2000M の長い長い黒戸尾根を下った。車が林道の途中にあったので、ヘッドライトをつけてのんびりと向かった。南アの沢はこれで三度目だが、やはりスケールが違う。

二十九年正月廿一
洪七公道

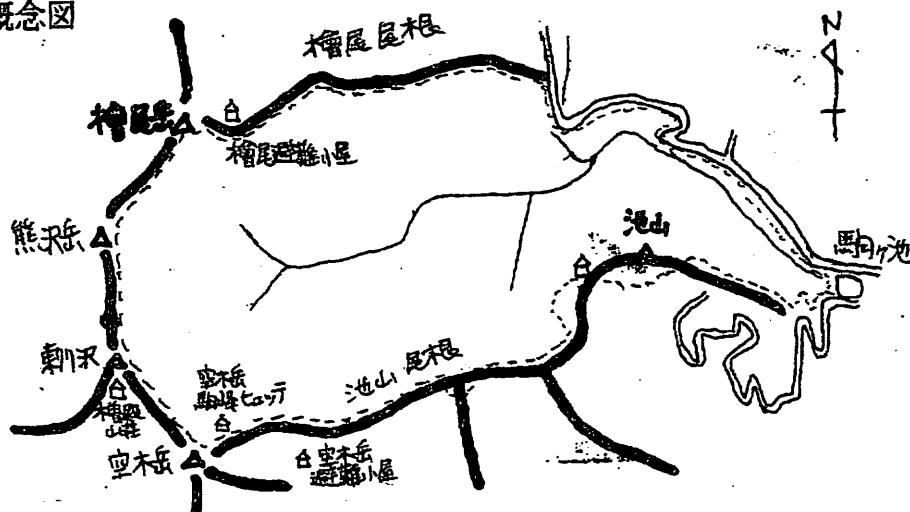
A small, stylized illustration of an open book or manuscript, showing two pages with some text and markings.

お年暮のモノアリをもつて一。
本当に大切なもの前に僕は
これを付けていた。アガフヤが泣いて
心配して、翌朝彼にはお風呂入ら。

中央アルプス 空木岳・檜尾岳

メンバー：L三森 武志(会1) 高谷 英太郎(会2) 尾鼻 陽介(会1)

概念図



コースタイム

10月 19日(土)

7:50 出発 9:30 池山小屋 11:30 迷い尾根 12:45 分岐
13:50 駒峰ヒュッテ 14:10 空木岳 14:20 ヒュッテ

天気は登る前から曇っていて、先行きが不安だった。それでも池山小屋、迷い尾根と思ったより速いペースで進んだ。しかし分岐を過ぎたあたりから霰が降りはじめた。池山小屋で駒峰ヒュッテが避難小屋として使えると聞いていたので、なんとかそこまで行き、そこで1泊することにした。

10月 20日(日)

4:30 起床 6:10 出発 6:40 分岐 7:20 迷い尾根
9:10 池山小屋 10:00 林道終点 11:00 駐車場

この日は朝からガスが濃く、昨日は霰も降ったし、加えてリーダーは1年ということで往路下山することにした。途中、事故現場の見えるところで黙祷を捧げ、春寂寥を歌つた。その後池山小屋まで下りてもガスは晴れなかった。更に林道に出るとサルがいて、それが結構大きく、しかも近かったので、襲われるのではないかっと思つてちょっとどきどきした。今回はこのような形での下山になって非常に残念だが、また来ることになると思うのでそのときの楽しみにとておくこととする。

湯檜曽川 本谷

10,19~10,20 天候・曇り,後小雨
メンバー・横山輝,片寄

10,19 8:30 谷川ロープウェイ~10:30 武能沢出合入渓~13:00 七ッ小屋沢出合~4:00 峠沢出合 B.P.

片寄宅の,1 時間遅れの時計(確信犯?)で目覚め,上田を 4:00 発.
途中,道を間違えながらも 4 時間のドライブ. 意外と早く着く.
河原に下りた所で遅い朝食を取り,気合を入れなおす.

最初の魚止めの滝から少しいやらしいザイルを出しながら進むと
ゴルジュは終わり,ナメ床が続く. こここの紅葉が素晴らしい! 曇天にも薄日が差ってきて,紅色や黄色の木々に 2 人でしばし見とれる.
この辺がこの山行のハイライトで,遡行して行く内に雲行きが怪しくなる.
七ッ小屋沢のあたりで,やっぱり振り出す. ○寄は晴れ男を主張するが,このメンバーでは晴れを期待出来る訳もない. このままエケープしようかとも考えるが,大滝 40 メートルという核心だけは越えときたかったので,様子を見ながら進む. 大滝迄はゴルジュや滝がいくつか続く.人がよく入っているらしく残置ピソ,巻き道の跡がある.が,全然信用ならない.やはり自分の判断が一番だと思う.

大滝も右岸の壁を少し登って,ルンゼからブッシュにトラバースして,そのまま落ち口へとすんなり出た.

頭上に送電線が走っているのが見えたので,その巡視路まで上がり,雨の中,ずぶ濡れのビバークへと突入する. ああ,タープが欲しい.

2 人ともメットをしたままエッセンをする(こうすると雨滴が気にならない). シエルの中はすでに酸欠状態. 苦しい. でも開けると,夜風がずぶ濡れの身にはつらい. やれやれ. 鍋を開けるたびに,蒸氣で片寄が霞んで見えない. ああ,モイシャ. 2 人ともメットをしたまま強引にシュラフに入る. 夜も雨が降り続き,長い夜だった.

10,20 7:00 出発~7:40 稲線~11,30 武能沢出合~12,30 下山
翌朝,少し小降りになったが,谷川=鉄砲水という印象があったので巡視路からさっさと逃げる. 後は,○寄君のタイツに沢靴という,奇妙な後ろ姿眺めながら,ひたすら家路をめざした.
機会があれば晴れの日にまた行きたい,内容のある沢でした. 終

ルート名：餓鬼岳～燕岳

メンバー：L 佐藤祐樹 (3)
片寄哲生 (2)
高谷英太郎 (2)



タイム：
6:00 登山口(餓鬼岳)
7:30 1400m 最終水場
11:00 大田山の手前の七ヶ
12:00 白沢を上りていたる所
17:00 登山口(餓鬼岳)

} 11/1

今日は六合宿の道程を見ながら入山したのが先日
の大雪のため道ではまされあえなく下山... 1500mを
越えたところから急いで雪が多くなり、登山道は全く見
当がつかないまで、近くにあつて尾根をたどり、大田山の
手前まで来ただけでいかんせん時間もたたないふくで、
友。行く手はドヨーンと厚い雲に覆われ、いかにも大
慌れといった予感。下山を決定し、帰る。途中雪の
上に紅葉がひらりと落ちて、結構見かけたが、
素直に喜べないので。それっても早うござる!!

また後立つ!

次の山道良②

新装備開拓団

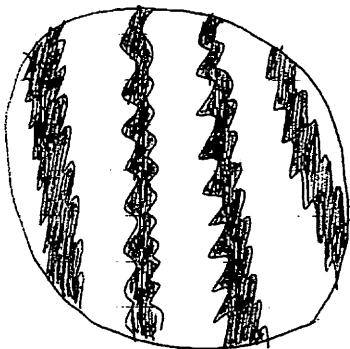
緊張した渋滞の疲れをいやすく
に毛糸の衣にはさみ水がかかるせないもの。
毛糸の衣これに本筋はもう安心。
結果が大きくなると早うございます。

手從

まなづか

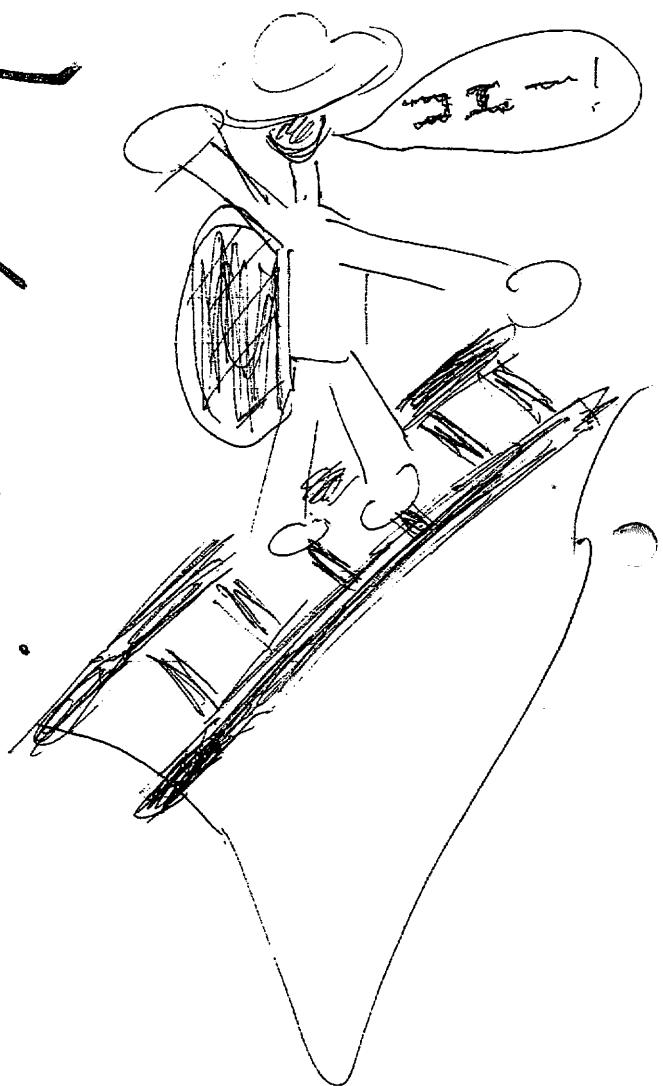
走

金失はし



合

宿



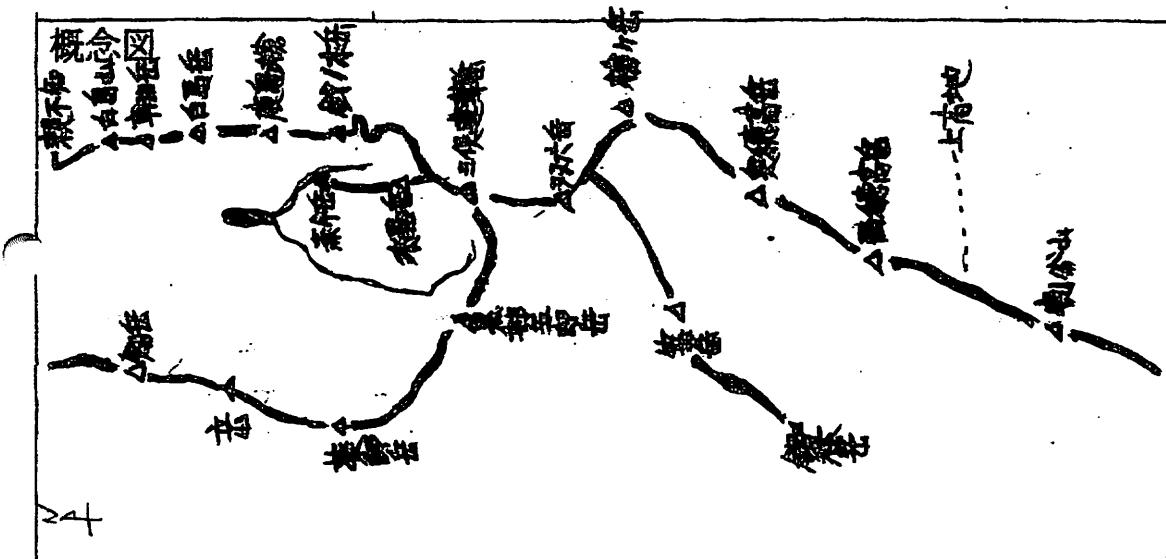
北アルプス縦走隊

(8/5 ~ 8/17)

(親不知~白馬岳~五竜岳~針の木~双六~穂高~上高地)

メンバー 片寄(L・2) 瀧沢(1) 三森(1)

概念図



8/4 アプローチ(登り) 松本→親不知→ホテル親不知

のんびりと午後の列車で親不知へと向かう。南小谷からの車両が一両しかないのには絶句する。車内は満員で暑い。

ノックさんの差入れの小型扇風機、唯一の活躍の場となる。

登山口のまん前にそびえるホテル親不知付近が今夜のテント場の予定。だ・が、親不知駅からのアプローチ、細い歩道に太ったガッシャで両手に差入れをぶら下げて通るにしてはあの大型トラックの連発は恐ろしすぎ。果てはこの縦走の核心では?と3人ビビる。

無事ホテルに辿り着き、付近の東屋にてエッセン。ホテルに頼めば水はくませてもらえた。2つしかないベンチをツバリ、しばらくお別れとなる下界での夢へと・・・。

8/5(晴れ午後~時空り)起床(4:00)ホテル発(4:55)→坂田峠(9:55)→シキ割の水場(11:20)→白鳥小屋(13:00)

差入れのスイカを1P目にて開放する。食いしこきとなる。しかしこれのおかげか、この後白鳥小屋までまったく空腹感がない。逆に水はガブガブ飲んだ。

白鳥小屋に到着したところで發天化してきたためここで行動を終える。雨の降る前にと、三森と二人で水場へ向かうがそれらしき場所に着いても一向に水の気配がない。かなり遠出をして水場を求めるがこれも失敗。この時点で急にスイカパワーが切れて片寄がバテる。なにか食ってこりやよかった。

落胆して小屋に戻ると、天水溜めのタンクがあると聞かされる。仕方なしにこれを拝借して(一応熱消して)エッセンとする。日本海を眺めながらの夕飯がうまい。

8/6(暗れ)起床(6:00)小屋発(7:40)→黄蓮の水場(9:50)→梅海山荘(12:15)

昨日、白鳥小屋でストップしたため今日は梅海山荘泊まりとなる。朝日にしてのんびり起床。小屋の掃除を済ませて出発する。

ようやくこの山行初の冷たい水の流れる黄蓮の水場に着き、ここで冷水のカルビスを開放。しかし作ったボリタンの水は白鳥小屋で熱消してきたヌルヌルの水。ばかみたい。

白鳥小屋に到着し、おやつを一杯やってから瀧沢と水汲みに北又ノ水場へ向かう。往復1時間なり。水場でおばちゃんパーティーに会う。水汲みをしてあげたらコーヒーとおつまみをくれた。このコーヒーが効いてこの夜は寝不足気味となる。

8/7(暗れ)起床(3:00)梅海山荘発(4:20*夜明け待ちに20分程かかる)→黒岩山(7:20)→朝日岳(12:35)→朝日小屋

T.S(13:30)

早起きしたものの意外に夜明けが遅くしばらく待機となる。

黒岩平、アヤメ平は実にきれいな所だった。しかし長い！白鳥～朝日は無理だと話を実感する。

朝日小屋に早くに着いたので早速エッセンを済ます。数時間後、朝日小屋でバイトをしている友人に小屋の夕食をご馳走してもらう。初めての小屋の食事に三人唖然。うまい！信じられない。山でこんな飯ありか!? 小屋の従業員の方(主にバイト)一同と食卓を開ませてもらいつつ、楽しく美味しいひとときを過ごす。

8/8(暗れ)起床(3:30)朝日T.S発(4:45)→雪倉岳(8:50)→白馬岳(12:35)→鏡ヶ岳(16:05)→天狗山荘着(17:05)

友人に別れを告げ、見送られつつ朝日小屋を後にする。

朝日の水平道では沢がちょくちょく現れる。水場として利用したい。

雪倉岳山頂までが異様に長く感じられる。白馬山頂もなかなか遠い。アップダウンのせいか？三国境で三人、魂の叫びをあげて元気を出す。

白馬山頂にてしばらくお昼寝。陽射しは強いが至極快適なり。それにしても白馬の小屋設備にはびっくり。レストランまである。文明の力に目移りしながら出発。

鏡ヶ岳までは長く感じられるが、鏡から天狗山荘までは意外に近い。この山荘は水場よし、トイレよし、テントよしで最高！

8/9(小雨)起床(5:00)天狗T.S発(6:10)→不帰キレット入り(7:00)→唐松岳(10:50)→五竜山荘 T.S(14:40)

朝からガスった空模様だったが、午後からはよくなるという白馬山荘の天気予報に期待して出発する。

キレットへのドリに入るとところで小雨がちらつき始めるが問題なしと見て足を進める。天狗から唐松方面への道のりは小雨程度なら恐くないが、その逆となると遠慮したいところ。三人とも鎖場等危険箇所を問題なく通過。来た道を振り返ってみて、キレットへのドリの方が核心であったと思う。

予定ではここですれ違うはずの井上隊に出会わなかっただめ、心配になる。

ガスっていたせいで唐松山頂がなかなか確認できない。こんどこそと念をかけて行き着くものの裏切られ続ける。ようやく着いた山頂でもガスが晴れず、感慨まったくなし。さっさと小屋へ下って水の取れる雪渓を探すことにする。

その背渓は唐松山荘のテント場のさらに下にあり往復するのが面倒ではあるが、買えば1L200円以上する、ボリタンをありったけぶら下げて水場へと向かう。幸いにも背渓からはちょろちょろと水が流れしており、多少の砂利は混じるもの十分汲める。

通り道のテント場にダンロップが張ってあり、もしや井上隊?と期待するが松ワンの伊斐君達であった。雨のためにキレット突入を避けたとのこと。いろいろと情報交換。

唐松小屋から五竜山荘までが意外にも慎重さを要求された。水が加わった分もあってかなり疲れる。しかしそのおかげで五竜山荘では一滴も買うことなくおやつエッセンともに済ますことができた。

ちょうどご飯が炊けようとしている頃に井上隊の三人が五竜方面から下りてくるのを確認する。即座にあらよコール。三人とも元気そうで安心する。各隊ごとにエッセンを済ませてから、たまたま隣にテントを構えていた伊那ワンとそのOBから頂いたカルビとウインナーを食べる。感動! 井上隊の差し入れのおこぼれにもあづかる。

8/10(晴れ)起床(3:30)五竜 T.S 発(4:40)→五竜岳(6:10)→北尾根の頭(8:28)→キレット小屋(9:50)→鹿島槍北峰分岐(11:25)→南峰(12:15)→冷池山荘(13:50)→爺ヶ岳 (15:40)→種池山荘 T.S(16:40)

五竜から鹿島槍までは緊張する場面が続々する。五竜への登りのガレ場で溜沢が足を滑らしたため、一応メットを装着することにする。意外に多くの人がついてくるものでどんどん抜かしてもらう。キレット小屋に着くにもエセピーケークが多く何遍かがっかりする。キレット小屋にて長めの一本をとってからいざ八峰キレットへ突入。八峰キレットには正直ビビる。今回の縦走中のキレット中では一番恐ろしいキレットじゃないかしらと思った。一年一人は実に安定した足使いを見せて貰っていたので、幸い2年としてはかなり助かった。

鹿島槍南峰からはもう普通の登山道。ぐいぐい飛ばして冷池山荘に到着する。かなりゆっくりしてから出発。すれ違うおばちゃん達の「何キロあるの?」の質問にもさすがに飽きてくる。「同情するなら飯をくれ!」と思う。冷池のアイスはきっとうまいのだろう。

やっこさの爺ヶ岳にてのんびりとする。山頂の岩影に住むねずみがかわいい。あとは種池に下っておいしいご飯を食べるだけ、と。

危険箇所が多かったためと長時間コースであったためとで飛ばしてきたせいいかなり早めの到着となる。この山荘で初めて水を買う。意外にも多めに入れてくれる所以感謝。

8/11(くもり後雨)起床(4:30)種池 T.S 発(5:30)→新越川山荘(7:25)→スバリ岳(11:05)→針の木岳(12:05)針の木小屋 T.S(13:00)

遅めの起床で出発したものの終始整い模様で寒いぐらいの一日になる。意外にガレた道が続くもので慎重になる。また剣方面からの横風が強いが、大タテガビンの勇姿に励まされながら歩く。

途中三森の鼻血のために臨時一本を入れる。

スバリ→針の木間で雨にやられる。テント場を目前にしてグショ濡れになりがっかり。それでも針の木からの下りのころにはすでに晴れ間が覗き始めたおかげで大分乾く。テント場での水汲みは背渓を利用できたのでお金を使わずに済みホッとする。

8/12(くもり時々雨)起床(3:30)針の木 T.S 発(4:45)→進華岳(5:45)→北葛岳(8:00)→七合 T.S(9:50)→2459m

(12:25)→不動岳(15:45)→鳥帽子小屋着(18:10)

本縦走最長行動日。ヘッドライトで出発しようかとするが螢火のため出発を遅らせる。七合の水場までは順調であったが、その先 2459mまでのアップダウンで三人ともグロッキーと化す。一度と歩きたくない道程として記憶に刻まれる。

とはいいうものの鳥帽子小屋はまだまだはるか彼方である。歩くしかなかった。とにかく長い。鳥帽子の岩頂?が点のように見えるのを、歩いてりや着く!と自分を励ましつつ足を前に出しつづける。そんなこんなで不動岳直下まで辿り着いたところで雷様の御出まし。やむなく這い松帯に荷をおろして虫に嘲笑われるたかのようにかられて待機。30分近く待ってからようやく行動再開。もはや一刻も早く小屋に着きたくて仕方がない。鳥帽子のピストンも明日にお預けにして通り過ぎるが、エセ鳥帽子がこれまたえらそうに立ちはだかっている。三人で愚痴をこぼしつつこれを越えてとうとう鳥帽子小屋に辿り着く。一年二人は実によく歩きました!13時間行動なんてするもんじゃないね。

8/13(概ね晴れ)起床(5:00)鳥帽子T.S 発(6:00~7:50)⇒鳥帽子岳→野口五郎岳(11:00)→水晶小屋(13:43~14:45)⇒水晶岳→三俣山荘(16:50)

昨日省いた鳥帽子のピストンから一日が始まった。さっさと引き上げて撤収を済ませ、三俣を目指す。最初の1P、西から雨、東から陽射しという奇妙な天気で、暑いやら涼しいのやら? 野口五郎岳はただただ通過するだけといった感じでやり過ごし、水晶小屋を目指す。軽いアップダウンが気持ちよい。しかし、雨ならば最悪だろうなどとネガティブな発想を持ちながら歩く。水晶小屋に着いてしまえば、ピストンをばっぽと終えて三俣に向かうだけ。ここからは去年の縦走でも通った道のり、懐かしい。岩苔乗越からの下りのダルさは少しも変わっちゃいない。今年は沢に雪渓が残っていた。下りが終わって残すところ山荘までの登りとなった所で雨雲が見え始め、濡れてたまるかという思いで歩きつづける。なんとか降られずにテント場に到着。三俣オーナーの伊藤さんに無事お酒を手渡すことが出来てほっとする。夕食のキムチ鍋に森が泣いていたのが印象的だった。

8/14(くもり・時雨)起床(3:30)三俣発(4:50)⇒三俣進駐(5:40)→双六岳(6:55)→双六小屋(7:50)

雨が心配で早発ちしたものの双六ストップにしたのであまり意味なし。稜線上は風が強く、空も空いたので等ピストンは迷うことなく却下。下まで行こうかとも考えるが、強風と水のことを考えて双六止まりとした。ここは風が強い。なるべく風下に幕営して他のテントに風除けになつてもらう。夕方になると案の定テント場は満杯。早めに張ってよかったと肩をなでおろす。

8/15(風強く雨)起床(4:00)

朝から強風豪雨で一向に弱まる気配がないので沈殿とする。榆ヶ岳の風の強さを思つてはほつとする。しかしこれで西穂高までは行けなくなつたとがっかりする。久々に沈殿でのひもじさを味わう。冬合宿を思い出して苦笑。

8/16(晴れ後曇り時々雨)起床(4:00)双六 T.S 発(5:10)→榆ヶ岳の小屋(8:35)→南岳小屋(10:35)→北穂高小屋(13:25)

→湖沢岳(15:50)→穂高岳山荘(16:15)

昨日がうそのような穏やかな天気となる。西穂につなげられそうなのを期待するとしぜんベースが速まる。双六~

抬間をコ・スタイルの半分で終える。槍ヶ岳は長蛇の列が出来ており登る気まったくなし。早々に穂高の稜線へと向かう。南岳への到着も悪くない時間だったので先を進める。大キレットを1P(2h30m)で越えて北穂小屋到着。大キレットとは言うが八峰キレットの方がよっぽど怖いと思った。このピッチで三森がバテる。北穂の小屋で長めの一本をとる。気を取り直して穂高唐山荘を目指す。が、5分とせずに着いた北穂山頂に拍子抜けする。洞沢岳手前では岩に走ったクラック沿いに安環とペツルがセットしてあり、歓心する。無事洞沢岳に辿り着くと直ぐ下に山荘が見えて、三人で喜ぶ。尾さんと一本連絡を入れた後山荘へ。テントは込みまくっていたものの、ぎりぎりセーフで空いていたテントをゲットできた。穂高唐山荘の環境には3人とも目を疑わんばかり。それでもトイレが洋式なことは歓喜!いよいよ明日は下山ということで美味しい汁を食べ、伊那ワンにもらった線香花火も山荘前の石垣の陰でくすぐらせて、やや興奮気味に就寝。

8/17(晴れ後雨)起床(4:00)穂高山荘発(5:20)→奥穂高岳(6:00)→天狗のコル(8:48)→間ノ岳(10:40)→西穂高岳(11:55)→西穂独標(13:10)→西穂山荘(13:50)→上高地登山口(16:15)

余裕こいて遅めの出発にしたら、もはや奥穂への登り道は蟻の行列のように人がたかっていて艳句。已む無くその後についてのろのろと1P目を歩き出す。奥穂の山頂で写真を撮ってから、行けなくなった吊り尾根を尻目に西穂へと向かう。まず馬の背に出来を押される。その後ジャンダルム、天狗のコルと順調。間天のコルへの逆滑スラブドリで渋滞にあう他はマイペースに進める。鎖などのお助けはあるものの頼らずに攀じ登るのを楽しむ。途中岳沢が口に入るが、そのガレガレの様相を見て使わずに済んだことに安心する。西穂前の大小のピークを越えて西穂山頂に到着!他の登山者の調理するウインナーに思わずまだが。。。サマテンで歓迎されるのを夢見ながら下山開始。独標以降はぐんぐんベースをあげていいける。西穂山荘にてゆるりと一本をとつてから、本当に最後の下山道へと進路をとる。サマテンでの歓迎のされようを話題にしながら充実感がこみ上げてくる。下山を開始したところでタ立が振り出したが、すでに樹林帯に入つておりカッパを着る必要も感じない。2Pで上高地に辿り着き、後はサマテンへの道のりを残すのみ。日高さん、松沢さん含む現役達の歓迎を受け、手渡されたビールが死ぬほどうまい。去年とは大違いだ。

やはりサマテンド由はいいもんだという感激とともに僕らの縦走は幕を降ろした。

全体を通しての反省

この縦走はそもそも朝日岳と西穂をつなげたいという単純な発想から計画されたものだった。その結果として13日間もの長期になってしまったのであって、初めから長期にしようとしてなったわけではなかったのである。

それに付けても予定通りのコースを、途中多少の無茶は混じったものの、すべて消化できた。まずこのことに満足している。これというのも各所各所で最も相応しい天候に恵まれたおかげだ。今回の縦走は天候に支えられた面が実に大きかった。おかげで素晴らしい情景にも出会えたり、山で出会う人々も一段きれいに見えた(?)。

また北アルプスの山小屋の設備を見て、山登りとはどうなっていくのかということを考えさせられた。

自分たちの登山の姿勢もきっと少なからず影響を受けていくべきだとも思った。

総合しての感想としてはつまり、ベターな縦走を満喫することができたということだ。

反省点を箇条書きにする。

- ・水汲みに出かけてバテた→おやつかなにか食べてから出発すべきである
- ・寝不足は次の日の行動に支障あり→わかっていたものの話が弾むときりがないものである
- ・差し入れ紛失→未だどこでなくしたか不明、重要装備でなくてよかった
- ・改めて痛感、山の天気は全く予報が当てにならない→観天望氣の充実を
- ・10時間以上行動というものは気持ちのいいものではない→一年生にはぜひ経験すべきか
- ・レーション、林飯はたっぷりあった方がうれしい→しかし燃費も考慮すべし
- ・水の節約を考えたメニューでも使用量に大差は表れない→普段通りの汁を食しませう
- ・テン場では石の使用が禁止の所も多い→ペグを排列すべし
- ・从六、總高を一日の行程で、しかも大キレット越えを1Pでしたのは誤りであった
- ・携帯での連絡もほどほどに、常に心配を与える→現役贈守との意思の疎通は課題



② knock: 横山光星
(5)

縦走合宿・反省と感想 2年 片寄 哲生

上田に生活を移してからというもの、格段に会員との関わりを持つ時間が減った。6、7月は個人山行にも行けず、新人部員達との交流も新人合宿以来となっていた。

上級生として単独で一年生を率いる初めての山行であり、また夏期とは言えど、経験上昨年の冬合宿に次いで長期の山行だ。さらに予定コースには危険箇所がいくつもあるし、その半分近くが自分でも未知の山域であった。

これらのことから上高地に無事に到着するまで諸々の心配の種が止まなかった。

とは言ふもののメンバーの一年二人が体力派であったことは、縦走全体を通して僕の負担をかなり軽減してくれたと思っている。

最上級生という立場に初めて立たされてみて、一年生を率いるということの感触を味わえたということはとても大きな収穫となった。



五章にて....

僕らのジャニーズ"アイドル"、
タッキーこと滝沢くんの
この雄々しい姿....

ス.テ.キ

縦走合宿・反省と感想 2年 片寄 哲生

上田に生活を移してからというもの、格段に会員との関わりを持つ時間が減った。6, 7月は個人山行にも行けず、新入部員達との交流も新人合宿以来となっていた。

上級生として単独で一年生を率いる初めての山行であり、また夏期とは言えど、経験上昨年の冬合宿に次いで長期の山行だ。さらに予定コースには危険個所がいくつもあるし、その半分近くが自分でも未知の山域であった。

これらのことから上高地に無事に到着するまで諸々の心配の種が尽きなかった。

とは言うもののメンバーの一年二人が体力派であったことは、縦走全体を通して僕の負担をかなり軽減してくれたと思っている。

最上級生という立場に初めて立たされてみて、一年生を率いるということの感触を味わえたということはとても大きな収穫となった。

この縦走はそもそも朝日岳と西穂をつなげたいという単純な発想から計画されたものだった。その結果として13日間もの長期になってしまったのであって、初めから長期にしようとしてなったわけではなかったのである。

それについても予定通りのコースを、途中多少の無茶は混じったものの、すべて消化できた。まずこのことに満足している。これというのも各所各所で最も相応しい天候に恵まれたおかげだ。今回の縦走は天候に支えられた面が実に大きかった。おかげで素晴らしい情景にも出会えたし、山で出会う人々も一段きれいに見えた(?)。

また北アルプスの山小屋の設備を見て、山登りとはどうなっていくのかということも考えさせられた。自分たちの登山の姿勢もきっと少なからず影響を受けていくべきだとも思った。

総合しての感想としてはつまり、ペターな縦走を満喫することができたということだ。

反省点を箇条書きにする。

- ・ 水汲みに出かけてバテた→おやつかなにか食べてから出発すべきである
- ・ 寝不足は次の日の行動に支障あり→わかっていたものの話が弾むときりがないものである
- ・ 差し入れ紛失→未だどこでなくしたか不明。重要装備でなくてよかった
- ・ 改めて痛感、山の天気は全く予報が当てにならない→観天望気の充実を
- ・ 10時間以上行動というものは気持ちのいいものではない→一年生にはぜひ経験さすべきか
- ・ レーション、昼飯はたっぷりあった方がうれしい→しかし燃費も考慮すべし
- ・ 水の節約を考えたメニューでも使用量に大差は表れない→普段通りの汁を食しませう
- ・ テン場では石の使用が禁止の所も多い→ペグを携行すべし
- ・ 双六～穂高を一日の行程で、しかも大キレット越えを1Pでしたのは誤りであった
- ・ 携帯での連絡もほどほどに、変に心配を与える→現役留守との意思の疎通は課題

夢は北アルプスを超えて

1年 瀧澤 輝佳

まさに夢のような13日間だった。憧れの山々を次々に登り、振り向けば信じられない距離を越えていた。日に日に薄れゆく記憶を必死に追っかけていると、それが若き日の恋愛だったかのようにも思えてくる。名前は？？。

アプローチ 親不知の駅を降り、巨大トラックをよけながら登山口に向かう。いつのまにか200Mアップしていた。ウェストンさんに守られて就寝。

1日目 いよいよ始まってしまった。ほんとに上高地まで歩いて行けるのだろうか。先の事はあまり考えない事にした。ザックは重いが大好きなスイカの食いしごきに歓喜のうめきを上げる。金時坂を這い上がり、樹海新道を詰め、白鳥小屋に到着。雲行きが怪しいのでここに泊まることになった。水場がみつからず、コガネムシの死骸の浮いた雨水を煮沸して使う。初日からサバイバル。しかし日本海の絶景を見下ろしながらの日本酒は美味過ぎて涙が出そうになった。

4日目 朝日小屋との別れを惜しみつつ白馬へ向かう。雪倉岳あたりからだんだん風が冷たくなってきた。三国境で遠くに朝日小屋が見える。3人で叫んだ。笑いながらも片寄さんにエール。白馬で初コマクサ。確かにウマヅラだった。天狗山荘に暗くなる直前に着いた。今縦走最長の12時間行動。ガチンコっぽくなってきた。

5日目 五竜山荘で井上隊と一緒にになる。みんなで無事を喜び合う。伊那ワンのおすそ分けの肉に感動。大橋にもらった余ったレーションは本当にありがたかった。

8日目 いよいよ今縦走の核心とも言える針ノ木小屋～鳥帽子小屋のコースタイムで13時間を超える日程。船窪岳から不動岳のワイヤーの急斜面では、あまりの進まなさに絶句。18:00にへとへとで鳥帽子小屋にたどり着く。体操するにも体がガチガチ。まさにガチンコ。

11日目 雨と風が強いため双六小屋で初の沈殿。沈殿するとなんであんなに腹が減るのだろうか。ミッチャーとともに飢えに苦しむ。食い放の話ばかり。持ってきた本が暇つぶしに役に立つ。『人の一生は、重き荷を負うて遠き路を行くが如し。急ぐべからず。』(徳川家康)

12日目 懐かしの槍。嗜通り槍の穂先に行列ができるて、登る気にならなかった。最終日の酒沢下山を回避するため、コースタイムを大幅に上回るすごい勢いで進み、3000M級の山をいくつも超え、強引に穂高岳山荘まで来てしまった。若さに乾杯。

13日目 奥穂からジャンダルムを超え、念願の西穂。この岩稜はこれまでのどのキレットよりも厳しかった。ガレ山の連続、綱渡りのような細い尾根、印や踏み跡も少ない。片寄さんが適切な指示を出し無事通過できた。改めて先輩の大きさを感じた。こうして、我々はサマーテント最終日に間に合い、現役全員とOBの松沢さん、日高さんに暖かく迎えられ、最高に美味しいビールと肉、佐藤さんの差し入れのチーズケーキを頂いた。

何日目だったか覚えていないが、冷たい雨風にさらされて登っている時、急に僕の体に情熱が湧き上がってきた。今年中に北アを全部回れないだろうか。この縦走で半分以上回れる。挑戦してみよう。2002 北ア制覇！宿が付きそうだ。今回も感じたこと…「厳しい自然は僕の中に眠る生命力を引き出してくれる。何でも簡単に手に入る下界では見失いがちな人間の生きる意志、自然に立ち向かう本能、人生を切り開く活力が目覚める。」冬山が楽しめた。本当に魂の叫びが聞こえるかもしれない。

最後になりましたが、この素晴らしい計画を立て、常に1年生2人の安全に気をかけ、隊を導いてくれた片寄さんに、そして様々なアドバイスをくれ、苦しいときも飢えるときも励ましあったミッチャーに、ありがとうございました。

縦走合宿の反省・感想

三森武志

この山行に行く上で一番心配だったのが、体力が最後までもつだらうかということだった。2週間近くも入山していたら、ぐっすり寝たとしても、疲れは抜け切らないだらうと思っていたけれど、まあ何とか最後までもつたのでよかった。それとは別に、登ってみて気がついたのだけれど、事前の調べがぜんぜん足りなかつたと思う。水場の位置や、その日の日程なんかが曖昧で、片寄さんに戻したりするのも、1度や2度ではなかつた。もっと自分が登りに行くんだという自覚を持たなければ。他にも、後が続かないようなペースで進んだりするなどの集中力を欠いた部分もいくらかあったので注意したい。一番のミスは、なんといつてもレーションの量だ。あれは少なすぎた。なんだか行動中は常に飢えていたように思う。やはり新人合宿のときのように、余るぐらいがちょうどいいんじゃないだらうか。

この縦走合宿は、2週間という長い期間入山していることが、1番勉強になるんじやないかと思う。山での生活に慣れるということもあるし、何より多くの山に登れる。今回は13日間のうち、半分以上が好天で運がよかつたと思う。その分これから山行で雨が降ったとき、対処が遅れそうで心配でもある。その辺も考えながら、これからもがんばりたい。



徒走合宿

(ルート) 南アルプス全山(メンバー) 2年 高谷 英太郎 伴水野 郁章



9/7(土)

- 5:00 BOX集合
- 8:15 夜叉神峠登山口
- 9:15 夜叉神峠 高谷山分岐
- 9:45 高谷山山頂
- 10:10 夜叉神峠
- 14:05 南御室小屋T.S

三森大夜叉神まで送、てもらい出発。
個人的な事情でマナーな高谷山
に足を伸ばした。(メンバーの所を見ると
わかるよう跡をこえたあたりから雨が
降りだし本降りになつた。初日からの雨
にまれかかつた。

9/8(日)

- 3:30 起床
- 4:55 出発
- 6:40 薬師岳
- 7:25 観音岳
- 9:15 地蔵岳
- 10:10 高根
- 12:30 玄河原峠
- 13:15 早川尾根小屋T.S

この日は、朝の内は天気も良く、雲間三山
からは、これから向かう北岳や南部の山々
がみわたせた。今日は、自分の誕生日であ
たのだが、木野山や内縁アーリングをあげ
くれて、アセントしてくれた。感謝!! 今日
の内に甲斐駒ビストンをして、仙木までいく
予定だ。だが天気が悪化しそうだ。たのて
早川尾根小屋でSTOP。

$\gamma_q(\mathbb{R})$

2:30	起床
4:00	早川小屋前
6:40	T43峰
7:55	栗沢山
9:45	仙水木屋
12:35	甲斐駒ヶ岳
15:15	仙水木屋

早川民衆からは、甲斐駒の喜利天の岩場や、ダムモード
アラシケが見え、感動は。いつかハーフやるとべに普ふ。ト。
仙木小屋タテントをはり、甲斐駒をピストン。

9/10(火)

3:30	起床
5:05	仙木小磨號
8:55	小仙大山岳
10:00	仙人大山岳
13:30	高望池
15:40	野呂川越
16:30	高俱木屋T.S

仙大までは順調に高度を稼ぎ難なく山頂へ。しかし、そこからの仙塩尾根がたるかた。仙塩尾根途中の高望地は、水場もありテン場未最適。

9/11(水)

3:30	起 ^ル
5:00	雨 ^{あめ} 保 ^{くわ} 小屋 ^{こや} T.S.發 ^{はつ}
6:40	左 ^さ 保 ^{くわ} 大流 ^{だりゅう}
10:55	北 ^{きた} 岳 ^{だけ}
12:10	北 ^{きた} 岳 ^{だけ} 山莊 ^{さんじょう}
14:20	閉 ^し の ^す 岳 ^{だけ}
15:45	震 ^{ふる} 島 ^{しま} 小屋 ^{こや} T.S.

左俣大滝までは、未登り4ヶ月。北岳までは足登の連続。それ以降も北岳山荘のハイイトレとやらは、牢審船の中の様な感じで過和感を覚えた。

木
本

起床
 発島
 岳屋
 小屋
 駐車場
 砂島
 発島
 三國平
 幾の平
 小屋
 棚沢T.S

農島をピストンした後、テントを撤収し出発。三国平へのトラバースは2ピッチ。いい眺め。三国平やたら少し過ぎて先で機械的がアーチーにそろぐう。「それで出発します!!」「ハイ!!(みんなで)」。何なんかない? 雪探査はいい天場だが、冰場はない。

卷之三

3:00	起床
4:15	出發
5:45	塩見山頂
6:55	塩見木屋
9:10	三伏木屋
10:35	鳥帽子島
15:00	高山裏小屋T.S

塩見下では、肺腫でなくか、たんかいると聞いていたので、この日も天井が悪かたので少し恐がた。塩見は遠くからみると、山、こうか、こよかた。高山裏下は小屋下泊まらず、テントをほて泊まつた。

9/14(金)

3:30 起床
9:00 洗顔洗足

9/15(土)

2:00 起床
3:15 出発
6:30 荒川中岳
8:05 大聖寺平
9:15 小赤石岳
9:35 赤石岳
11:10 百間平
12:00 百間渓T.S

この日は、赤石・荒川にいいたわけだが、頂上での展望は全くない。合宿を趣じてこのような時間がかかる。百間渓では、テント設営に関して1屋の人とひともあした。パンパン#

9/16(日)

2:00 起床
3:15 出発
5:10 木沢岳
7:30 兔岳
7:40 兔小屋
10:00 聖岳
11:30 聖ヶ原、屋T.S

この日は、1日中荒天。カラフルと並ぶよう聖岳への登りを行った。頂上1分。聖平小屋は、小屋が開放されておりまるで天国のよう環境だった。

9/17(月)

悪天のため洗濯

9/18(火)

3:30 起床
5:00 出発
6:55 上河内岳
9:10 希望峰
10:20 光岳
12:20 光小屋
13:00 光岳・光岩
15:00 光小屋

この日は、バイト中のBONDさんと偶然である。何とお金ももらさない。アリヤトウミであります。そして、南アルプス主稜線上最後の光岳に到着。感動。光石の上で屋寝。

9/19(水)

3:30 起床
4:45 出発
5:10 百俣沢の頭
6:40 本当の百俣沢の頭
8:20 骨川道を失う
8:50 略見
10:20 百俣沢の頭下原る
11:30 エスキ-7-来定
12:20 光岳登山口
13:00 大根沢橋
18:00 小根沢橋
21:10 展望台T.S

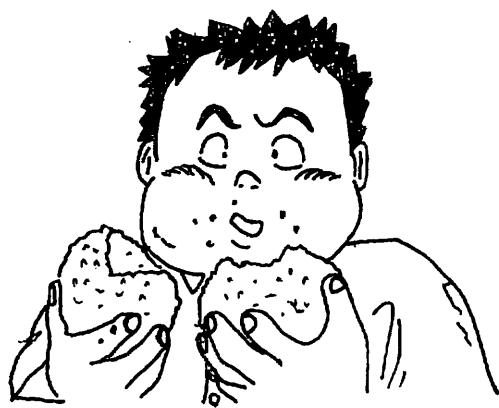
この日は、大無間山方面に向かう予定であるが途中で迷ひかけでズケがなくなり。エスキ-7-の林道使用を決定。何とこの林道40.0kmだるい。

9/20 (金)

3:30 起床
5:30 出発
6:20 千頭ダム
7:25 す又峡温泉

この日は、いよいよ最終日。千頭ダムから少し歩いた所で、地元の人の車にのせてもらひ、いよいよす又峡へ。アリカラタナー。どうして俺達の熱い2週間が終わった。

いつの日から、南アルプスが好きだなってそういう経験で、縦走も南で全山にして。終ち、だから感想。やっぱり南アは良い。これからは目標は、甲斐駒の岩場。冬期南アルプス全山である。最後に、水野へ。会をやめ、自分の道を歩き始めたお前。その選擇が間違ひじたことを自分の力で証明していきなはれ。一人の自分、一つの人生。



うーー朝のメシ食べちゃった

by こうや

大好評
ニルハネアドバイス。
決めて道具④

モード ぐるぐる
シーシイにはかせません。
たたしこねたんじゅうくのはやめさせう。
観光客の耳が聴こえかいいです。O音源。

縦走合宿の反省と感想

1年 水野 魁章

初めて行った南アルプスの印象を一言で言えば鬱蒼としていてじめじめしているといったところです。しかし、北アルプスにはない、高地での木々の多さ、お花畠（9月なのでほとんど枯れていたのですが）の多さに驚かされましたし、他にも南アルプスの山はなだらかだという自分のイメージ（というか思い込み）に反した険しさにも驚かされました。

この山行では思いも寄らない失敗をしてしまいました。それは調味料袋をBOXに忘れてしまったことです。なぜ忘れてしまったのか。もしかしたら、出発前に気のゆるみがあったのかかもしれません。

また、縦走中、ヘッドライト行動かけ、こう多かったのですが、そのとき自分の暗闇での行動力、判断力のなさに失望しました。やはり経験不足なのでしょう。

14日間の2/3は雨が霧で、その間はひたすら歩いたという感じが残、ただけであまり山の印象は残っていません。しかし、その分晴れたときには壮大な南アルプスの姿に感動を与えられました。

何はともあれ、無事に下山できてよかったですと思ひます。2週間もの間、面倒を見てください、た高谷先輩には大変感謝しています。

扇沢～日本海。

今回の縦走のルートは、前からやめてめたかったものでした。
そのため、出発前からとても楽しみました。

また、この縦走では、いろいろな事を経験しました。
針木小屋から冷池山荘まで行くつもりが、種池山荘
だけ行けず、その次の日の行動について3人で意見
を出し合って考えました。私は山でこれ程考えたのは、
たぶん初めてでした。また、初めの2のキレットの通過。

特にハ峰キレットは、小雨の降る中だったので、かなり
神経を使いました。また、白馬三山を通った時に吹
いた強風も初めて体験しました。

また、この縦走合宿で自分の中で変わった事があり
ました。それは高山植物に興味を持った事です。初日は
初めてシロバナコウサを見たのがきっかけであったのか、
その日に見た植物を小屋で調べたりして、また別の
山の楽しみ方を見つけることを発見しました。

縦走合宿は最後まで楽しめたです。

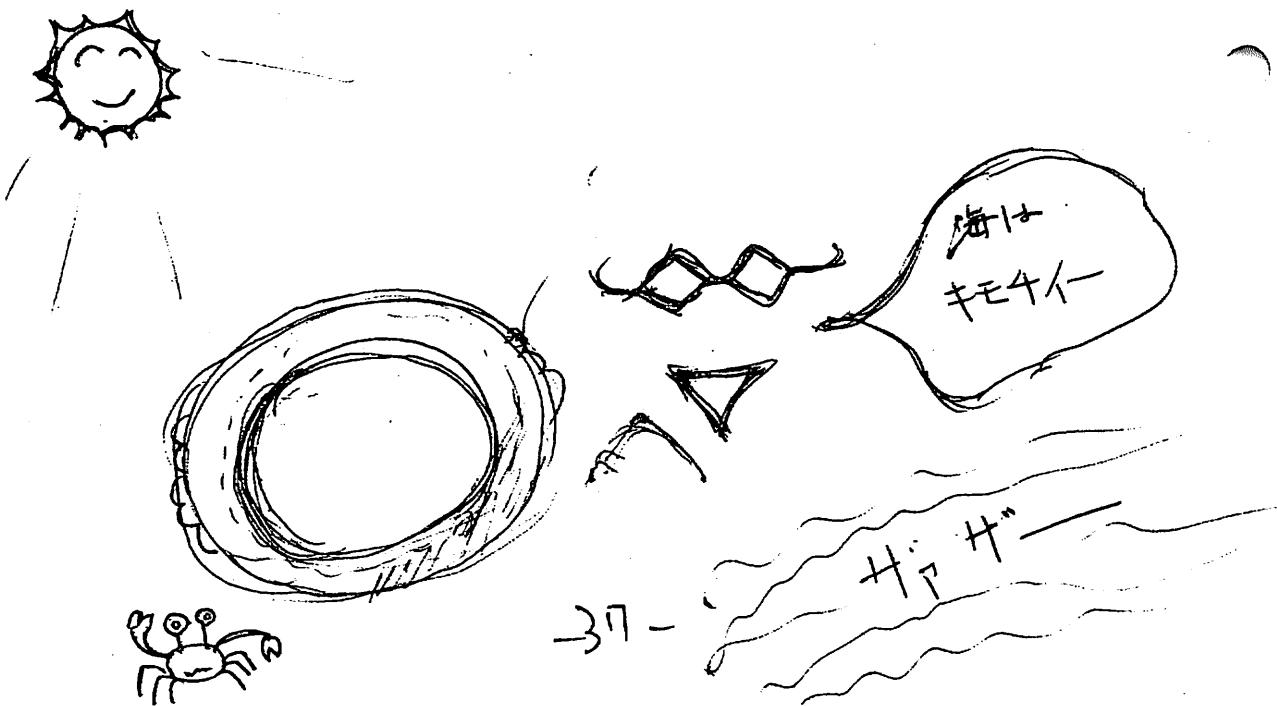
尾鼻 陽介

楽しかった縦走合宿

大橋 達也

僕が、井上さんが計画した扇沢から日本海の親不知までのルートを選んだのは、日本海が見られるというのに強く惹かれたからだ。本当に、達成することができるのだろうか、出発前夜は結構緊張していたように思う。初日、雪渓のだるいアプローチを終え、ガスってたのは残念だったが、蓮華の頂上で、食べたスイカは本当においしかった。そしてなによりも、白いコマクサが見れたのは良かった。生物が好きな尾鼻は、やけに感動していた。尾鼻は、道端に、きれいな花や、珍しい植物があるたびに、これは何とかという名前だよって教えてくれた。今まで、歩くのに精一杯で、周りを見ることなんてあまりなかったように思うけど、尾鼻のおかげで、自然を満喫しながら登る大変さを学んだようだ。井上さんは、時には厳しいこともあったけど、いつも優しくて、色々な話を聞かせてくれた。そして、何といってもすぐれた生活技術は本当に勉強になった。

この縦走で一番気に入った山は爺ヶ岳だ、富士山、槍ヶ岳、剣、好天のお陰ですばらしい眺めだった。さて一番怖かったのは、キレットだったと答えただろう。あの国道に出るまでは、割れたガラス、線香のにおい、お地蔵さん、ものすごいスピードでとばすトラック、正直、生きた心地がしなかった。本当の核心は、国道だった。核心を越えて、海に着いたあの時の感動は忘れられない。疲れなんて吹き飛んで、気の済むまで泳ぎまくった。水平線の彼方には、大陸が見えた。8日間、長いようで短かったけど、充実した縦走合宿が送れて本当に良かったと思う。井上さん、そして尾鼻と山が楽しめて良かった。



編集後記。

イヤ~~、ほんと寒い!!

常念、ま、白、ごモ僕ら
のハートはもえろドクド
クいい赤色ごう。

よし、行くよ~~。

早く凍れ~~。

編集長。

名前

SAC
JAC

印刷：松本

印刷日：11月8日

編集：佐藤

表紙：瀧澤